

情報リテラシー教育ルーブリック（一橋大学附属図書館 2025年度版）

【ルーブリック策定の目的】
 一橋大学附属図書館において情報リテラシー教育活動を行うにあたり、その対象者のレベルに応じて期待される行動指標や、獲得すべき能力・知識を定め、個々のガイダンスの設計・見直しに際しての基準とする。
 なお、策定に当たっては「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版（国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会）」に基づいた。

表1. レベル別ガイダンス（2025年度（予定））

2025/2/26現在

レベル 主な対象者	初級 学部1,2年生	中級 学部2,3,4年生	上級 学部4年生, 大学院修士課程以上	
ガイダンスと そのレベル範囲	①リサーチ・スキルズ			
	②レポートの書き方ワークショップ			
	③法学ワークショップ			
	④大学院新入生向け図書館ガイダンス			
	⑤データベースガイダンス			
	⑥オンデマンドガイダンス			
	⑦論文投稿講座			

表2. 目的とする参加者の習得スキル（基準）と該当するガイダンス番号

課題解決のための情報活用 行動プロセス	初級＝基礎：与えられたテーマ・情報源 をもとにレポートを作成できる	中級＝応用：与えられた課題について 自らテーマを設定し、先行事例を 踏まえた上で自らの意見を含んだレ ポートの作成・発表ができる	上級＝発展：自ら調査・研究 テーマを設定し、学術的 な論文の作成・発表ができ る
<u>1. 課題を認識する</u> 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める	<ul style="list-style-type: none"> 課題の意図を正しく理解する。②③ 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に沿ったテーマを設定できる。②③ 	
<u>2. 情報探索を計画する</u> 必要な情報入手のために探索計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> 図書、雑誌、インターネット等、情報・メディアの種類が多岐にわたることを理解し、それぞれの特性を説明できる。①⑥ 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。①④⑥ 著作権法等、情報を探索する際の適法性に留意できる。①②④⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる。①④⑤⑥⑦ 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。⑤⑥⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼性の高い情報を選択できる。⑤⑥⑦
<u>3. 情報を入手する</u> 情報探索ツールを適切に選択・活用し、情報を効率的に入手する	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索・入手できる。①④⑥ 参考・引用文献リストを適切に取り、調査に活用できる。①⑥ 与えられた情報源を検索できる。①④⑤⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索の検索語（同意語、上位語、下位語）を工夫し、データベースを検索できる。①⑤⑥⑦ データベースを活用し、必要な情報・資料を検索できる。①④⑤⑥⑦ 情報の出所や信頼性を点検・確認できる。①⑥⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる。⑤⑥⑦ 他機関の図書館から文献を取寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。④⑥
<u>4. 情報を分析・評価し、整理・管理する</u> 収集した情報を体系的に整理・管理する	<ul style="list-style-type: none"> 学術的な文章の要旨をまとめることができる。②③ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。②⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> 資料リストを作成し、管理できる。⑤⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる。⑤⑦
<u>5. 情報を批判的に検討し知識を再構造化する</u> 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する		<ul style="list-style-type: none"> 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる。②⑦ 	
<u>6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する</u> 社会倫理に則り、合法的に情報を活用・発信し、情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また、情報活用講堂全体を省察する	<ul style="list-style-type: none"> レポートの一般的な体裁を説明できる。② 他人の文章と自分の文章を区別して書くことができる。② 読み手を意識してレポートをまとめることができる。②③ 引用と剽窃の違いを説明できる。② 情報の典拠を明示し、適切に引用できる。② 	<ul style="list-style-type: none"> 事實的・理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べるることができる。②③ 著作権法等の情報倫理に留意できる。② 	<ul style="list-style-type: none"> 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。⑦ 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる。⑦